

発行No.68009

2019年11月5日

株式会社東陽テクニカ

東陽テクニカ、2019年9月期決算発表 前期比 増収・営業利益増益、配当金は3円増の33円へ 5Gビジネスが伸張

(株)東陽テクニカ(8151:東京都中央区 五味勝社長)は、本日(2019年11月5日)午後2時、TDnetにおいて2019年9月期の決算を発表しました。

【概要】

売上高は255億4千7百万円(前期比+8.3%)、営業利益は18億6千1百万円(前期比+30.4%)、経常利益は18億6千5百万円(前期比+29.1%)、親会社株主に帰属する当期純利益は11億4千1百万円(前期比▲6.5%)でした。この結果、1株あたり年間配当金は前期比3円増の33円となります。

中期経営計画(目標数値:2021年9月期、売上高260億円、営業利益20億円、ROE5%)につきましては、計画達成に向け実行した施策の結果が反映され、また、5G(第5世代移動通信システム)ビジネスの伸張もあり、順調に進捗しております。詳しくは、同日付でTDnetに掲載しております決算説明資料をご参照ください。

【売上動向】

国内取引高は243億2千9百万円(前期比+8.6%)で、海外取引高は12億1千8百万円(前期比+2.8%)でした。

セグメント別では、情報通信/情報セキュリティ分野では、5Gに対応する試験装置の需要が高まっており、売上を大きく伸ばすことができました。さらに、主力のキャリア向けネットワーク機器性能試験装置や、自社製品SYNESISの販売も好調で、売上・利益共に大幅に増加しました。自動車関連の研究開発投資が引き続き旺盛であったことなどから、機械制御/振動騒音、物性/エネルギーの各分野でも売上が好調に推移しました。

【受注動向】

情報通信/情報セキュリティ分野で、5Gに対応する大型試験装置の複数受注があり、機械制御/振動騒音分野のセンサーや、EMC/大型アンテナ分野の国内外の自動車関連も好調でした。一方、物性/エネルギー分野の電源関連や、ライフサイエンス/マテリアルズ分野の新しい電子顕微鏡ビジネスは低調でした。

その結果、受注高は256億円で前期に比べ16億5千万円増(前期比+6.9%)と増加しました。

【受注残動向】

受注残は、79億4千8百万円で前期に比べ5千3百万円増(前期比+0.7%)となりました。

【売上総利益率】

売上総利益率は前期比1.4ポイント低下し43.4%となり、売上総利益は111億円（前期比+5.0%）となりました。売上総利益率の低下は、複数の大型試験装置の納入があったことが要因です。なお、当期（2018年10月～2019年9月）の平均為替レートは対ドルで110円（前期111円）、対ユーロで125円（前期132円）でした。

【経費】

経費は92億3千9百万円で、前期比+1.0%の増加となりました。新規ビジネス立ち上げや中国・米国へのビジネス展開のための先行投資、自動車関連計測設備の増強を含めて、計画どおりでした。

【当期純利益】

2019年9月期は、営業利益・経常利益ともに前期比増益でしたが、前期に比べ実効税率が高くなったため、当期純利益のみ前期比減益となりました。

【連結対象子会社】

東揚精測系統（上海）有限公司、東陽精測國際有限公司、TOYOTech LLC、PolyVirtual Corporation、北京普利科技有限公司

【2020年9月期 通期予想】

売上高 256億円、営業利益 19億円、経常利益 20億円、当期純利益 14億円、
配当金1株あたり年38円（うち、中間配当 14円）

★ 本件に関するお問い合わせ先 ★

株式会社 東陽テクニカ

常務取締役 ととき しゅうぞう 十時 崇蔵

Tel:03-3279-0771 Fax:03-3246-0645 E-Mail:toyo-ir@toyo.co.jp

※本ニュースリリースに記載されている内容は、発表日現在の情報です。製品情報、サービス内容、お問い合わせ先など、予告なく変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※記載されている会社名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。